



三原市水道事業創設80周年

おいしい水をいつまでも

三原の上水道の歴史

市の上水道は、中之町の和久原川付近に水を取るための井戸を、館町の椋山に貯水タンクを建設し、昭和8年10月26日に給水を開始しました。最初の給水地域は現在の東町と館町でした。当時の三原町の人口は12,822人(昭和5年国勢調査)。建設費は9万9千円でした。この設備投資は当時と



▶昭和32年当時の宮浦浄水場(写真中央下)

しては大規模であり、町民がいかに良質な水を望んでいたかが想像できます。昭和9年に帝人三原工場が操業開始、昭和11年に三原市が誕生し、昭和18年には三菱重工業三原製作所が発足しました。工業都市としての発展、そして将来の人口増加が見込まれるため、水の需要増に早急に対応する必要がありました。

そこで、沼田川を水源に、宮浦町に浄水場を、西宮町に貯水タンクを新設する計画を立てました。昭和16年に起工し、当初は3カ年で完成する予定でしたが、戦時中の物資統制と戦後という悪条件が重なり、昭和26年ようやく完成しました。

その後、市の発展に伴う給水区域の拡大、経済成長とともに増え続ける水道の需要に対応するため、管路延長による給水範囲の拡大、宮浦浄水場や県

営梨梨ダム建設に伴う受水施設の増強など、6回の拡張工事を実施しました。

おいしく環境にやさしい水づくり

平成16年3月には、一体的な管理と安定給水、経営の効率化などを実現するため、浄水場と庁舎、拠点タンクを一カ所に集約した新浄水場を西野に設置しました。西野浄水場は、「人と環境にやさしい水づくり」と「災害に強い水道」をコンセプトに掲げています。飲料水をつくる

▶緩速ろ過池



過程では、薬品を一切使わず、自然の力で時間をかけて水をろ過する「緩速ろ過方式」を採用しています。これは自然界における天然水の生成を再現した方法です。

災害に強い水道をめざして

市の上水道は、平成3年の台風19号



ほかに、太陽光発電システム、電気自動車を導入し、環境にやさしい取り組みを行なっています。



▲太陽光発電システム「太陽の花」

による断水、平成6年の異常洪水による49日間の給水制限、平成13年の芸予地震による給水設備の破損など、予期せぬ災害によってたびたび大きな被害を受けてきました。

これらの経験から、災害時においてもできる限り必要な水を供給できるよう、災害に強い施設整備を進めています。

西野浄水場内には自家発電設備を設置し、主要な管路には耐震管を採用しています。また、大規模な貯水タンク



▲渇水時の沼田川(平成6年8月)

良質な水をいつまでも

時代とともに発展してきた市の上水道ですが、事業開始から80年が経過し、施設の維持管理や計画的な更新改良、災害対策など、対応すべき課題は数多くあります。

事業の経営状態をみると、人口減少や節水機器の普及などで、水道の料金収入は減少傾向が続いています。今後、設備投資などに必要な資金を確保するため、長期的な視点に立ち、事業の効率化や経費の節減を進めていきます。市民の生活を支える水。これまでも、そしてこれからも、安心・安全で良質な水道水を、安定的に供給できるように取り組んでいきます。



▲応急給水所(西野浄水場内)

水道事業80周年記念 水を飲もう!サッカー教室

～サンフレッチェ広島
選手とともに～

とき 11月24日(日)10時
30分～12時
ところ 三原小学校 体育館(館町二丁目)
内容 岡本知剛選手、川辺 駿選手などによるサッカー教室



▲岡本知剛選手



▲川辺 駿選手

※選手は予告なく変更になる場合があります。
対象 市内に住む小学3・4年生
定員 40人(申し込み多数の場合は抽選)
参加費 500円(保険料を含む)
用意する物 動きやすい服、体育館シューズ、タオル
申し込み 10月31日(木)(必着)までに、往復はがきに①住所、郵便番号②名前(ふりがな)③年齢④学年⑤電話番号を記入し、水道部管理課(〒723-0065西野五丁目14番1号 ☎0848・64・2297)へ
※返信用の表面には、郵便番号、住所、名前を記入してください。